

- ▶アンケート集計「キリスト教学校と教会の連携について～コロナ後を見据えて～」(3～2面)
- ▶第8回キリスト教看護教育推進会議(4面)
- ▶横須賀学院創立70周年記念事業
パイプオルガンの紹介(〃)
- ▶2023年度学内教職員研修会講師
派遣対象校選考結果(〃)
- ▶キリスト教Q&A(〃)
- ▶公募(〃)

キリスト教学校教育 3

2022・2023年度教研テーマ
希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 廉太
編集人 田村 浩一
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)
(毎月1回15日発行)

2023年広報委員会アンケート(3面・2面)

キリスト教学校と 教会の連携について ～コロナ後を見据えて～



教職員105名の皆様から
ご回答いただきました
ありがとうございました

3～2面の集計結果と考察をご覧ください

この4年間は、2019年度については5校で実施、2020年度は5校対象で新型コロナウイルスのために2校(対面)実施、2021年度は4校対象で3校実施(オンラインか対面・オンライン併用)、2022年度は枠を10校に増やし、8校の申し込みがあり、全て対面で実施できた。2022年は再募集をしても10校

学内 教職員研修会 講師派遣制度 について



福島基輝

朝の礼拝では教職員は生徒と共に参加している。教職員対象の聖書研究会が3ヶ月に1度、11月の全校修養会では、放課後に講師に教職員向けの話を30分ほどしていた。以上が教職員全員でキリスト教に触れる時間である。夏に平日1

ら玉川聖学院の安藤理恵子学院長が派遣されて、わずか1時間であったが、とても内容が濃い豊かな講演をしていただいた。教職員の感想によると、クリスチャン、ノンクリスチャンに関わらず、キリスト教教育に関して深い学びができたよ

うだった。日かけて行う教職員研修会については、学校改革のための研修が中心であった。本来ならもっとキリスト教やミッションスクールの意義などの学びが必要であるが、日々忙しく、なかなか時間をとれないでいた。今回、講師派遣委員会か

感想には、「建学の精神」について、とらえなおすことができ、創始者の心を引き継ぐ責任を感じた。「キリスト教学校とは他者と共に生きる学校」であり、他者と生きるためには赦しが必要不可欠だが、思春期のなかでそのことに気づけるのはキリスト教学校において他にないことを確認できた。/ミッションスクールにおいて、ノンクリスチャン教員の「キリスト教教育」への関わり方とはどうあるべきか、講師の先生のお話は、自分が感じていた「断絶」のようなものを軽やかに飛び越えてくれるようなお話であった。/キリスト教教育の「愛すること、赦すこと」に目を向けていくことで、生徒・保護者との関係がより良い方向に向いていくと改めて認識

への自覚を促され、また、できた。この1年間、教研研修会の重要性をあらためて強調された。会議前半は、22・23年度の教研テーマ「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」の下に行われたこの1年間の各部会の活動5つの分団に分かれ、各委員が現在感じている課題について、議論と情報交換を行った。(写真)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

2022年度教育研究勢の不安定化による不安や恐れ、敵意の増大に對して、「希望と喜び」と對話に生き、死の恐れに晒されているロシア兵のたてつけに立つキリスト教学校」の下の行われたこの1年間の各部会の活動5つの分団に分かれ、各委員が現在感じている課題について、議論と情報交換を行った。(写真)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

2022年度教育研究勢の不安定化による不安や恐れ、敵意の増大に對して、「希望と喜び」と對話に生き、死の恐れに晒されているロシア兵のたてつけに立つキリスト教学校」の下の行われたこの1年間の各部会の活動5つの分団に分かれ、各委員が現在感じている課題について、議論と情報交換を行った。(写真)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)

「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」という教研テーマは、次年度2年目に入る。キリスト教学校を取り巻く状況はさらに厳しくなることが懸念される。しかし、わたしたちは「希望と喜び」を与えられている学校でもある。そのことを心に留めつつ、次年度もテーマをさらに深め、分かち合う活動を継続していきたい。永野茂洋(明治学院大学教授、教育同盟教研全国委員会委員長)



「空の鳥を見よ、野の花を見よ」
空の鳥をよく見なさい。種も時かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。野の花がどのようになつたか、注意して見なさい。働かず、紡ぎもしない。しかし、紡ぎもおく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほども着飾つてはいなかった。(マタイによる福音書6章25・34節より抜粋)

主の御名を崇め、感謝の心を絶えず蓄えなくてはなりません。真実の学問は、すぐ役に立つような方法論だけでなく、コツコツと学んでいくところに意味があるのです。ある人が、聖書の言葉「若芽が出て花を咲かせる準備をしています。冬の厳しい寒さの中で枯れたかのように見えている植物が、生命を蓄えている。野の花を見よ」とい

聖書のことば



津村大三

事へ行く時も歩いてる時もそのことに励んだのです。そうすると、今まで自分は知っていると思いきや、実は、何も知らなかったということを再発見して、新しい心、新しい気持ちで、感謝の心で一杯に

加盟校動静

- 尚綱学院 佐々木公明氏が22年12月31日付けで理事長・学院長を退任、1月1日付けで加藤正名氏が理事長に就任、佐藤司郎氏が学院長に就任。
- 西南学院 G.W.パークレー氏が22年12月14日付けで理事長を退任、12月15日付けで宮崎隆一氏が後任に就任。
- 四国学院 山下慶親氏が22年11月29日付けで理事長を退任、11月30日付けで橋本一仁氏が後任に就任。

- <行事予定>
- 6/2~3 第111回定時総会(八代学院・オンライン併用)
 - 17 第68回東日本小学校教職員協議会(青山学院初等部)
 - 7/22~24 第67回事務職員夏期学校(東山荘)
 - 8/2~4 第10回中堅教員リトリート(同志社びわこリトリートセンター)
 - 7~8 第8回全国災害支援連絡会議(九州ルーテル学院大学)
 - 10~12 第3回教員リフレッシュ研修(洞川温泉あたらしや旅館)
 - 17~19 第56回全国聖書研究集会(捜真学院)
 - 23~24 第13回中堅事務職員リトリート(同志社大学今出川キャンパス)
 - 25 第10回大学新任教員研修会(オンライン)

(3面よりつづく)

と、加えて、牧師の年代・性別などについてのバランスや配慮も依頼の際には重視されているようである。信徒については、生徒たちの関心が喚起されるよう、キリスト教社会活動団体の働きを担っている卒業生など身近な存在が招かれることが多い。また高校生・大学生伝道団体の主事などが選ばれることもあるようである。

8 貴学の創立に関わる教会、教団との結びつきや連携はありますか。

<回答より考察>

親密な関係が今も続いていると回答した学校が多い中、今は関係や連携がないと回答した学校も少数ながらあった。関係の継続は、理事やチャプレン、宗教主任等の母体教団からの派遣であったり、関係教団の牧師が、教員や非常勤講師として働いている等によって維持されていたりする。加えて、近隣教会の牧師(教職)が、教職員の研修や教職員対象の聖書研究を行ったり、生徒たちの日々の礼拝奉仕、宗教行事等に関わることにしても、関係教団との結びつきが深いことが可視化されていたりする。また、生徒はじめ、保護者などが関係教会を訪問したり、夏休みの体験学習等で、生徒たちを積極的に受け入れてもらっている学校もあつたりする。相互的な関わりが続いていることがアンケート結果からもわかる。さらに、母体教団の世界的なネットワークの中で留学制度が設けられている学校もある。互いに年間活動報告を提出したり、祈りの課題を共有したりしている学校もあり、建学の理念の継承の意味でも設立母体教団との関係が大切にされているようである。

9-1 建学の精神をキリスト教教育の中でどのように生かしていますか。また学校は教会活動とどのような活動と内容で関係を持つべきと考えますか。

<回答より考察>

「建学の精神をキリスト教教育の中でどのように生かしていますか」との設問に対して、小中高大学に共通して、そもそも建学の精神が教育の理念そのものであるという理解が多く見られ、建学の精神をキリスト教教育の中で生かすためには、日々の礼拝、創立記念礼拝、聖書の授業、様々なキリスト教行事を何よりも大切にしているという回答が多くを占めた。建学の精神をキリスト教教育において具現していく際に、まず礼拝を学校の中心に置くことの重要性や、「平和や人権などを生徒の主体的な学びのテーマ・材料として、知的・霊的の両側面から取り上げ生徒に考えさせている」という回答もあつた。大学に関してさらに見ると、キリスト教関連科目や大学礼拝を中心に建学の精神を紹介し、聖書およびキリスト教の価値観を土台に現代社会の諸問題を考える視点を養うことや、教育学や社会学などの諸学の教育研究にも、建学の精神が具体的に現れ出ること意識しているという回答もあつた。

「学校は教会活動とどのような活動と内容で

関係を持つべきと考えますか」との設問に対しては、小学校の回答には、公的行事をできる限り日曜日に行わず、児童の教会出席を促し、また保護者への働きかけが必要であるなどの記述があつた。「ミッションスクールは聖書と教会への入り口となり得るが、既存の教会に出席を促すとき、生徒が行きにくいと感じる(固い、暗い、つまらない、青少年がいない)教会もある」との指摘もあり、教会の側が児童・生徒・学生を教会に迎え入れる力が無くなっているのではという指摘や、教会の側が中高生を教会に招く工夫も必要であろうという回答も見られた。また「学校と教会活動を結び付けようとするれば、学校の教職員からかなりの反対を受ける」という回答や、「現実には学校のキリスト教と教会のキリスト教には大きな隔たりがあつて、繋がれない感じが強い」という回答もあつた。キリスト教学校と教会学校にはそれぞれ固有の役割があることを再認識しつつ、キリスト教学校と教会の間で相互交流を深め、どのような協働と連帯が可能であるのか互いに模索し続けることが今後ますます重要になってくることもアンケートから読み取れる。

9-2 (大学関係者におたずねします)

キリスト教教育において、個人の信教の自由をどのように位置づけていますか。また、授業の内部質保証として建学の精神と3つのポリシー/方針をどのように関連付けていますか。

<回答より考察>

大学教育のなかで教育の内部質保証に関しての建学の精神と3つのポリシー及び信教の自由との関係について問う項目である。

多くの回答が信教の自由という憲法上の枠を前提として、大学の教育、及び建学の精神と3つのポリシーの設定をしている。その上で学生の礼拝出席については自由参加としている大学が多いが、キリスト教科目の成績評価に礼拝への参加を関連させている大学もあつた。また個人の信仰への配慮により代替の課題を課するという大学もあつた。キリスト教教育は真理・正義、個人の尊厳の尊重など人格形成をめざすものであり、個人の信教の自由はその土台としていた姿勢が伺われた。キリスト教教育の目指すところはキリスト教信仰を強制するものではないという回答がほとんどであった。

キリスト教関連科目の「目的」についてはキリスト教理解を通し、文化・芸術の理解を深め、国内外の社会・世界を知り、広い価値観を理解できる、宗教一般の理解に結びつけるなどが挙げられている。回答の多くが大学のキリスト教教育は直接の「伝道」の場ではないこと、個人の信教の自由への十分な配慮がされているという回答がほとんどであった。また、キリスト教とカルト、洗脳という今日的な宗教への負のイメージへの対応を行っている大学もあつた。

建学の精神に基づく3ポリシーと教育内容については、学部ごとにキリスト教理解を前提として設定していること、キリスト教科目は信仰を押し付けるためではなく1つの学問領域としての教養教育科目であること、必修でなく選択

科目としている大学もあつた。

ディプロマ・ポリシー(DP)では「キリスト教の教えを踏まえた考察ができる」、あるいはキリスト教的人間観をもって「自己、他者、課題を考え行動できる」等としている回答や、カリキュラム・ポリシー(CP)では教養教育科目の中で、聖書とキリスト教関連科目を置いているとの回答が目立った。

10 これからキリスト教学校は教会とどのような活動と内容で関係を持つべきと考えますか。新しいご提案等ありますか。

<回答より考察>

これからのキリスト教学校が教会とどのような活動と内容で関係を持つべきと考えるか、新しい提案を含めて回答を願う問いであった。

学校の種別を問わず、「つながり」「交わり」「連携」といった言葉で表現される、学校と教会の関係の深まりを期待する回答が多数を占めた。そして、その深まりのための具体的な提案を回答いただいた。その内容は、地域教会や児童・生徒・学生の通う教会の教職者に学校礼拝に招くことや学校の教職員と教会の教職者との交流や情報交換の場を持つていくこと、学校行事に教会の方を招くこと、あるいは児童・生徒・学生が参加できるプログラムを教会に設けてもらうといった提案だった。

種別ごとに言及すると、小学校や特別支援学校からは、聖歌隊やハンドベルクワイヤーが地域教会で奉仕する、教会バザーのお手伝い、ワークショップの紹介をすること、教会の運動会やスポーツ大会に学校施設を貸し出すといった提案、児童生徒や教職員の募集などでの連携を模索するといった回答も見られた。中学校・高等学校からは、前述の学校の宗教系団体の教会奉仕に加えて、地域教会に中高生の居場所、集まりの場になるような取り組みを求める提案、相互の情報共有を深める取り組み、定期的な教会との交流に言及する回答もあつた。ある高等学校からは、「学生のキリスト教活動が盛んな大学との交流会の開催を願う」という提案もあつた。さらに、大学や専門学校などからは牧師とチャプレンの相互の学びあい、チャペルへ地域教会の牧師を招くこと、SDGsや人権問題、平和といった社会課題などのイベントの共同開催等を通して相互の結びつきを強化することを希望する回答が見られた。

キリスト教学校と教会との「つながり」「連携の深化」を期待する回答が多数を占める一方で、課題も指摘されていた。昨年以來続く、旧統一教会関連報道によって、「学外の教会なるものに行く」ことへの警戒感や宗教への懸念の高まりから、従来のカルト宗教への対応に加えて、丁寧に生徒や保護者に情報発信をするべきとの提案があつた。また、学校と教会が連携する中で、児童・生徒・学生への責任の所在の難しさ、連携を期待する一方、やはり両者には大きな隔たりがあり、繋がるのが困難であることを指摘する回答もあつた。今後、様々な形での「定期的な交流」によって、いかにキリスト教学校と教会が信頼関係を醸成していくかが期待される結果であった。

《総括》

今回のアンケートにも多くの学校からご回答をいただき、関心の高さを改めて認識した。ご協力いただき、深く感謝申し上げます次第である。

さて、所謂3密を必要とする学校にとっては大きな試練の3年であった。同じ理由で学校と教会との連携も、発想の転換を必要とする事態に遭遇した。この3年の模索、そこから出た新たな発想、そしてコロナ後への展望、提案、期待。今回の回答を通して、私たちが共有、協働できることが見えてくるかもしれない、という希望を抱き、回答を振り返りたい。

まず、コロナ禍での学校と教会の関係。直接の交流の激減、しかしそれに代わるオンライン礼拝という新たな形。繋がりの行き詰まりを新たな方法で打開する試みが、絶望の中から一筋の光を見出したような可能性を感じさせた。その経験を通して改めて、学校と教会が今まで以上に互いに情報を提供し、互いに対して求めることを率直に提示し合う必要性を認識したようである。近隣などの教会紹介も積極的に行う中で、カルト教会への注意も行っているという報告は、旧統一教会問題噴出のこの時期ならではのものであり、今後のコロナ後の教会紹介に於いては、コロナ前とは異なる注意点が出てくることが実感された。

教会と学校との共有イベント、懇談会、牧師に学校での説教を依頼、生徒・学生が教会奉仕を行うなどの回答があつたが、何も行っていない学校も全体の1/2以上に上った。また礼拝説教には、学校の関係教団や近隣の教会の牧師を招くことが多いとのこと。コロナ後

にすぐに共有イベントを始めたり再開したりすることは難しくても、礼拝の説教を教会の牧師に依頼することからまずは始めることであろう。関係教団との連携を具体的に進めている事例が回答の中に散見されたのは、試行錯誤の中にある各校のこれからのとって収穫である。

建学の精神をキリスト教教育の中で生かすことに関しては、礼拝などのキリスト教行事、平和・人権等の学び、大学ではキリスト教の価値観を土台にして諸学の研究に建学の精神が現れ出ること意識、という回答に見られるように、日々の学校の具体的な生活の中にキリスト教を通して建学の精神を学び取れるような営為を籠めてゆくことが肝要であろう。

最後に信教の自由について、大学の科目の設定の仕方に工夫が見られ、カルト問題も含め信教の自由に配慮した回答が大多数であった。

コロナ後に私たちが、新たなこの時代に即した方法で教会との情報共有・協働を広げ、それを学校同士で共有してゆく可能性の糸口を、今回の回答の中から多数得られたことは確かである。

学校名、回答者名を不掲載、固有名詞等一部編集の上、回答一覧を下記に掲載しています。各校での具体的な実践・意見等をご参照ください。



<https://onl.sc/L7NguQJ>

アンケート集計 結果と考察

キリスト教学校と教会の連携について

～コロナ後を見据えて～

コロナ禍での学校生活も3年、その間に生じた様々な面での「分断」が現在の行事や活動、生活指導に少なからず影響を与えていると見受けられる。学校と教会の繋がりも残念ながら薄らいだが、建学の精神を体現するには教会との関わりを再度深めていくことが求められるのではないかと。教会との対面での関わりが再開しつつある今、加盟校がコロナ前にどのような取り組みをしていたか、また、今後どのようなアプローチが考えられるかをお尋ねした。(広報委員会)

回答者学校種別

| | | | |
|-----------|----|--------|-----|
| 小学校 | 15 | 専門学校 | 1 |
| 中学校 | 3 | 高等学校～ | 1 |
| 高等学校 | 8 | 大学～大学院 | 1 |
| 小中校一貫校 | 4 | 短大～高校～ | 1 |
| 中高一貫/継続校 | 41 | 付属幼稚園 | 1 |
| 短大/大学/大学院 | 28 | 法人 | 1 |
| 特別支援学校 | 2 | 計 | 105 |

回答者職種

| | | | |
|---------|----|----------|-----|
| 理事長 | 1 | 宗教主事/主任・ | 48 |
| 学院長/学園長 | 3 | チャプレン | |
| 学長 | 1 | キリスト教 | 1 |
| 校長 | 18 | センター長 | |
| 副校長 | 8 | 教員 | 15 |
| 教頭 | 4 | 事務職員 | 6 |
| | | 計 | 105 |

- ・聖書研究会に集まった学生たちへの個人的勧め。
- ・学内礼拝に出席している学生に教会の案内を行っている。

5 教会出席について、貴学から教会一覧などの紹介(印刷物/WEB情報)をしていますか。教会出席への勧めや教会情報の提供の際に心がけていることはありますか。

<回答より考察>

教会出席を勧める手段として、入学前や入学時に冊子で教会一覧などの紹介をしている学校が多い。冊子には、学校近隣の教会、関わりが深い教会、教職員が行っている教会、周知の教派に属していることなどを条件にして掲載している。教会情報だけでなく礼拝の心得のような、安心して行くことができる導入の記事を含めるなど工夫をしている学校も多い。また、カルト教会に行かないように、説明を加えたり、紹介した以外の教会に通いたい場合には事前に相談するように声をかけている学校もある。専用の冊子以外にも、全員が携帯する生徒手帳に上記の内容が刷り込まれているという学校もあった。

冊子以外の方法では、教室に教会案内の一覧やポスターを掲示したり、校内にあるチャペルの入口に近隣の教会からのチラシやポスターを掲示配布できる場所を設けて、生徒や学生が自由に情報を受け取るという形もあった。

また、紙媒体以外では学校のホームページ上で教会紹介をしているという学校もあった。

アンケートの中では、個々の教会については、最新の情報を提供することの難しさが指摘されていた。

数は少ないが、まだ検討中である学校やコロナ禍で中断しているという学校も何校も見られた。

6 教会と貴学との共有するイベントなどがあればお書きください。

<回答より考察>

回答数の1/3以上が教会と学校の共有するイベントは行っていないと回答しているのが特徴的だった。

行っている学校で一番多いのが懇談会を定期的に持っているというものだった。近隣の教会、児童生徒が通っている教会、関わりのある教会の牧師や教会員の方と懇談の時を持ち、通っている児童生徒の様子や、学校と教会相互の情報交換などが行われている。

そのほかとしては、学内のクリスマスや特別な礼拝のときに牧師を招いて奨励をお願いするなど、教会から来てもらう形のものが多かった。

その反対に、生徒や学生が教会奉仕を行っている学校もあった。学校の聖歌隊やハンドベルクワイヤなど専門的に練習をしている生徒や学生が教会で礼拝奉仕するものや、教会バザーや地域の炊き出しなどのスタッフとして生徒や学生が奉仕する学校もあった。

また、数は少ないが、学校のグラウンドやチャペルなどの施設を教会や教区の生徒大会などで貸し出すという共有の形もみられた。

7 学内の礼拝説教などに招く牧師、信徒の範囲や基準はありますか。

<回答より考察>

学年礼拝等における学外からの説教奉仕者の依頼範囲については、設立母体となっている関係教団の牧師(教職)への依頼を原則としている場合が圧倒的に多い。また依頼の基準については、教会での勤務年数等を明確に定めている学校もあるが、多くは、生徒たちの日常的なキリスト教とのつながりを期待して、近隣の教会の牧師や生徒が通いやすい地域内の教会の牧師が依頼の候補とされていることが多い。また、生徒たちに届く、判りやすい言葉を語れるこ

(2面につづく)

1 コロナ前と現在において貴学と教会との繋がりに変化はありましたか。また、教会に出席する児童・生徒・学生の数に変化はありましたか。

<回答より考察>

学校と教会との繋がりについては、変化はないとする回答が若干あったものの、変化があったとする回答が、どの種類の学校でも多数を占めた。具体的には児童・生徒・学生を、教会での奉仕活動などに参加させること、学校と教会の交流会を持つこと、牧師が学校で礼拝を担当することなどを、ほとんどの学校が取りやめていた。また教会に出席する児童・生徒・学生の数は、減少したとの回答が圧倒的多数であった。高齢者の多い教会の事情を鑑み、通常実施している教会登録や礼拝出席の奨励などをしなかったから、というのが主な理由だ。定期的に出している教会出席のレポート課題も、この2年間は控えていたので、信者以外の生徒はなかなか教会に定着していないとの回答もあった。教会学校が休止となった教会もあり、減少はやむを得なかったとする回答がある一方、オンライン礼拝のおかげで、出席がかえって増えたとの指摘もあった。

2 多くの教会がCS(教会学校)礼拝を休みにしたり、オンライン礼拝に切り替えたりする中で、児童・生徒・学生を教会礼拝あるいは教会関連の活動に参加する試みを学校として行いましたか。

<回答より考察>

コロナ禍でも教会に繋がるための試みは、個々の教会の現状を配慮しながらも積極的に行った学校が多かった。ほとんどの学校が従来児童・生徒・学生が通ってきた教会に連絡をとり、各教会の情報、すなわち教会学校の有無、礼拝出席の可否、礼拝の形態(対面・オンライン・ハイブリッド)、ボランティアなどの教会活動の有無などを細かく調査して、子供たちとその保護者に伝える努力をしていた。オンライン礼拝を始める教会が増えると共に従来の礼拝出席や礼拝レポート課題を、オンライン礼拝でも可とする学校が増え、対面だけでなく子供たちを教会に繋げようとする努力がみられた。ある大学の回答に、新入生に対して「今はかつてない程、様々な教会の礼拝がオンラインで体験できる貴重な時」と伝えているとあった。オンライン礼拝を学生を教会に呼び集める導入の一つとして、前向きにとらえているのがわかる。

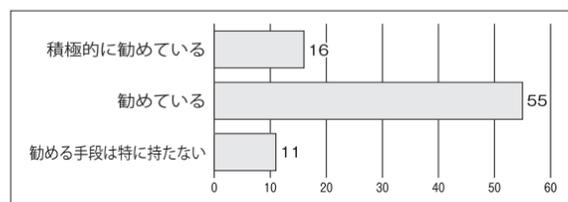
3 ポスト・コロナで、教会と学校との関わりには何が必要でしょうか。

<回答より考察>

ポスト・コロナで必要なものとしてあげられた回答で最も多かったのは、教会と学校との緊密な情報交換、情報共有である。未だ多くの学校が、現在をポスト・コロナとは定められないとし、各教会がどのような体制、感染対策で礼拝やその他の教会活動を行っているかを細かく知り、児童・生徒・学生とその家族に伝えたいと考えていることがわかった。一方で学校も、校内で行っている礼拝や感染対策の様子、また教会に求めていることを伝えていくべきだとの回答があった。その緊密な関係性の中で、互い

に信頼し合い、祈り合い、同じ子供たちに対して、共通の伝道意識を持って向き合うことが最も重要であるという一歩進めた指摘もあった。それを実現する具体的方法として、教会の牧師・教会員と学校の教師による交流会の開催や、牧師による学校礼拝での説教などがあげられていた。また二番目に多かった回答は、オンライン礼拝の継続である。もちろん対面による礼拝が行われている時は、それに出席するのが大前提だが、未だコロナ不安がある中では、対面とオンラインのハイブリッドはITに強いだけに、子供たちを教会に繋ぐため有効であるとの回答が多かった。

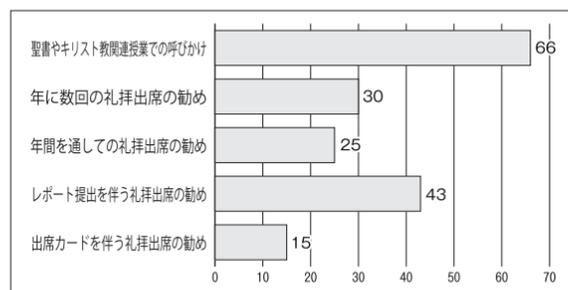
4-1 教会出席を児童・生徒・学生に勧めていますか。



【その他】(抜粋)

- ・保護者の聖書研究会では行事などを案内している。
- ・積極的には勧めていないが、一個人として伝えている。
- ・自由意志で参加を促す。同盟校進学を考えている生徒に勧めている。
- ・学内礼拝「チャペルアワー」への出席が難しい学生に、代替として紹介。
- ・授業等で一括して勧めるということはしておらず、相談があった場合等に個人的に勧めるような形になっている。
- ・これまでは積極的に勧めていたが、現在は保護者会での呼びかけ、問い合わせがあった場合のみお勧めしている。

4-2 勧めている場合、どのような勧め方をしていますか。(複数回答可)



【その他】

- ・年度初めに教会登録カードを教会に提出し、1年間通うことを牧師先生たちと約束するような形式。
- ・学年別の聖書研究時間を設け適切な教材を利用する。
- ・教会からの特別伝道集会等のポスター・チラシの配布。
- ・教会出席を勧め、出席した場合は「出席カード」を出すように伝えているが、強制や宿題にはしていない。
- ・中1で出席教会を全員に紹介し、どこの教会へ行くか確認している。
- ・学校礼拝で近隣教会牧師を招いたときに呼びかける。
- ・年度始めの学校方針でのお知らせ

第8回 キリスト教看護教育推進会議

キリスト教学校における看護教育とは
—「人になれ 奉仕せよ」を
具現化できる看護専門職の育成—

看護教育に携わる加盟校を対象に「キリスト教学校における看護教育とは」の主題のもと、第8回キリスト教看護教育推進会議が2022年11月26日に関東学院大学にてオンライン形式で開催された。加盟校14名、当番校29名の合計43名が参加した。小山厳也学長による挨拶、石渡浩司宗教主任による開会礼拝は、ヨハネ福音書3章16節「愛の実践」聖書に聴く」の説教から始まり、パイプオルガンによる前奏、混声合唱団部の賛美歌、聖書に基づく「愛」と「奉仕」の意味について、キリスト教看護教育の大切さの説教がされた。



石渡浩司宗教主任による礼拝

石渡浩司宗教主任からは、「神は愛なり」の愛は、一人一人がかげがえのない存在であり、自分自身も他の人々も自分と同じように大切にしなければならぬ。また「奉仕」とは、上下関係がなく本質的には上位の者が下位の者に仕えることである。人は、上から下を見がちであるが看護であれば何であれ相手を大切にする姿勢を受け止め、謙虚に仕えることである。聖書に基づく「愛」と「奉仕」の意味について、キリスト教看護教育の大切さの説教がされた。



派遣式集合写真(関東学院大学)

2023年度 学内教職員研修会 講師派遣対象校選考結果

| 法人・校名 | 研修人数 | 希望テーマ |
|-------------------|------|-------------------------------------|
| 1 弘前学院聖愛中学高等学校 | 50 | キリスト教主義学校に勤める意義について～ノンクリスチャン教職員の役割～ |
| 2 茨城キリスト教学園 | 100 | 建学の理念の具現化：具体例の紹介 |
| 3 静岡英和女学院中学校・高等学校 | 24 | キリスト教学校に勤めるとは？ |
| 4 平安女学院中学校高等学校 | 60 | キリスト教教育とは何か |
| 5 姫路日ノ本短期大学 | 12 | 大学におけるキリスト教教育について |
| 6 松山東雲中学高等学校 | 30 | キリスト教主義教育の意義 |
| 7 西南学院小学校 | 30 | キリスト教学校における道徳教育の捉え方について |

横須賀学院 創立70周年記念事業 パイプオルガンの紹介

横須賀学院のシンボルであるチャペル棟は、創立60周年記念事業として建設されました。その際、大チャペルの内壁にパイプオルガンを設置し、備えて縦長の窪みが設けられ、床は重量に耐える



パイプオルガンの設置に備えて縦長の窪みが設けられ、床は重量に耐える必要費用が満たさず、謝しています。

一方、奉献委員会は横須賀学院にふさわしいオルガンを求めて検討と視察を重ね、礼拝奏楽を基本とし専ら

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

パイプオルガンの幻が与えられて十数年、多くの祈りが神の御旨にかなって実現した建学の精神の結晶です。大チャペルでの礼拝は、パイプオルガンの厳かな調べ

キリスト教Q&A

—キリスト教の理解を深めるために—
神様ってどこにいるの？



野村 信

(東北学院 宗教センター) チャプレン

付属の幼稚園で礼拝のお話を担当して一年になりますが、園児たちの素直で一途な表情と祈後のアーメンの大合唱に毎回心がなごみ、澄んだ思いに満たされます。礼拝後、時々園児たちからの質問に答える時間があり、円陣に囲まれた中で、分かりやすく手振り身振りを加えて説明します。素朴な質問があれば、返答し難い問いもありますが、どれに対しても分かりやすく誠実に答えると園児たちは納得してくれるのもまた可愛らしいです。

「神様ってどこにいるの？」という質問は、簡単に答えることもできますが、言葉で説明しようとすると難しく、年齢に関係なく大切な問いの一つです。「イエス様と言って、お祈りするでしょ。神様は目には見えないけれどイエス様にお祈りすることで神様にお祈りしたことになるんだよ。」すると次に園児は「イエス様はどこにいるの？」と尋ねます。「イエス様については聖書の中に詳しく書かれています。今も私たちと一緒にいてくださるの。」

園児たちは少し分かったような、まだ十分に納得出来ない微妙な面持ちです。そこで続けます。「大事なことは、悲しい時や病気になった時にイエス様にお祈りすると、イエス様は聞いていてくださいます。」

お友だちやお家の人のためにお祈りする時にもいつも聞いていてくださるのです。神様は私たちの心の中にいて、いつも私たちを見守っていてくださいます。

「心の中に神様はいてくださる」と言うと、園児たちはなんとなく分かったような気持ちになります。そこで、「では今から、今日お休みしている人のためにお祈りしましょう。友だちと仲良く過ごせるようにお祈りしましょう。神様ありがとう、ってね。」と言って、実際に園児たちと一緒に祈りをします。アーメンの声がまた響きわたります。

言葉で説明するだけでなく、実際に行動で実践したほうが良いことは少なくありません。なるほど理屈で理解することも大切ですが、まず身をもって分かることも多いはず。

「神様はどこにいるの？」という問いは、場合によっては「神様なんていないよ」という声の延長かもしれません。私たちは神棚や仏像のある社会の中に身を置いているので、とかくキリスト教の神像のない世界に馴染みにくいことも少なくないはず。聖書はこの問題を古代から問い続けています(詩編14:1、53:1)。

横須賀学院院長
二瓶 浄幸

福岡女学院大学
人文学部メディア・コミュニケーション学科
ニケーションに関する理論と実践 教授又は准教授1名
採用予定日 4月1日
問合せ 092-575-2470

福岡女学院中学校・高等学校
数学科契約講師若手
採用予定日 4月1日
採用予定日 3月10日
問合せ 092-575-2470

鬼形 塩田
左) 鬼形 右) 塩田

公募
▽フエリス女学院大学
▽新学部(25年開設予定)
職種 ①日本近現代文学
②ジェンダー等に関する教育学
③臨床心理学
④健康心理学
教授又は助教各1名
採用予定日 25年4月1日
職種 ①被服分野 教授、准教授、講師又は助教1名
採用予定日 9月1日
職種 ②被服分野 教授、准教授、講師又は助教1名
採用予定日 3月31日
問合せ 045-812-8211

事務局だより
3月でご退職の全ての皆様に心からの感謝とねぎらいの気持ちを捧げます。これからの歩みのお守りをお祈りします。